

ほめる

仕事においても私的なときでも、事あるごとに人からほめられると嬉しいものです。

自分のやり方、能力が認められたと気分も高揚してくるものです。ただし、自分としてそれほどのことではないと思っている事に、必要以上にほめられると、口先だけのお世辞かなと思うこともあります。このことから分かるように「ほめる」ということは、言葉でいかにほめるかということではないということが分かります。

「ほめる」=「人間の本質を評価すること」なのです。

人間の本質という難しい表現をしましたが、誰もがもっている「ものごとに向けて努力する姿、スキルアップしたい意欲、認めてもらいたい気持ち、目配り・気配り・心配り等で気遣う行動」等があります。努力や見え方の大小はありますが、そうしたところを素直に観察し、評価し、ほめることです。

口先だけのほめ言葉だけでは、見透かされ、信頼がなくなり、かえって反感を持たせてしまうことになりかねません。その人の本質や能力をよく見て、心の底から評価しているのであれば、叱るという行為さえ、それは「ほめる」ことになるのではないのでしょうか。

ですからリーダー、管理者は、部下の持って生まれた人間的能力、あるいはその人の人格そのものを見つめる力があるかどうか問われてくるものと思います。

表に出てきた実績を評価し、ほめることは簡単ですが、ほめる事から更に出てくる、開発されてくる能力を信じ、部下の存在そのものを認め、受け入れることが大事です。

人間の本質を信じ、認めるということは、突き詰めれば人間関係の根本です。

あなたは沢山の部下の本質を見極め、良いところをほめていますか！ほめようと観察して行動していますか！

長嶺 堅二郎

